

中・高・大連携による
これからの教育実践モデルの構築

実 施 計 画

横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校
神奈川県立光陵高等学校
横浜国立大学教育人間科学部

平成19年12月

国立大学法人横浜国立大学教育人間科学部
神奈川県教育委員会

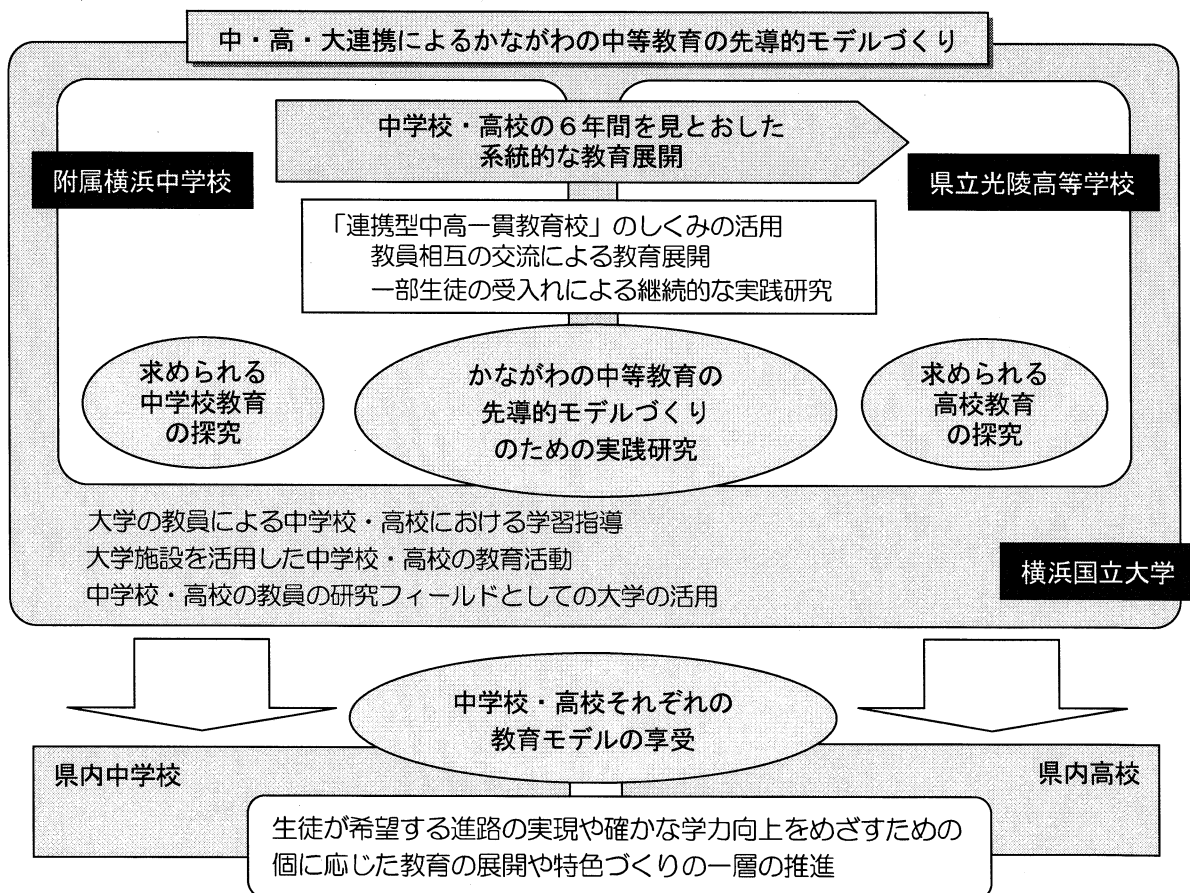
1 展開のねらい

中・高・大連携により、これからの社会をよりよく生きるための幅広い能力（「リテラシー」）の育成を重視した教育展開を進めるための「かながわの中等教育の先導的モデル」づくりを推進する。

- 中学校・高校の6年間を通じた、生徒一人ひとりの個性を生かし特性を伸ばす教育の展開に資するため、中学校・高校・大学との連携により、「かながわの中学校教育・高校教育の先導的モデル」となる教育展開の実践研究を進める。
- 教育展開にあたっては、これからの社会をよりよく生きるための幅広い能力（「リテラシー」）を身に付けた、次代を担う人材を育成することを目的とした教育を進め、中学校・高校の6年間を見とおした系統的な展開を図る。

2 展開の方法

- 横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校と神奈川県立光陵高等学校との連携による教育の展開
 - ◆ 連携にあたっては、「連携型中高一貫教育校」のしくみを活用し、6年間を見とおした教育課程を編成する。
 - ◆ 平成21年度より「連携型中高一貫教育校」として教育展開を行い、平成24年度より附属横浜中学校から「連携枠」による光陵高校での受入れを行う。
 - ◆ 高校においては、連携する中学校から入学した生徒と他の中学校から入学した生徒が、相互により影響を与えあう集団による教育展開を行う。
- 横浜国立大学の資源を活用した教育展開への支援



3 期待される効果

これからの社会に求められる確かな学力の育成に向け、「かながわの中等教育の先導的モデル」を示し、県内中学校及び高校にとっての今後の教育改善の指針を確立する。

◆確かな学力向上の期待に応える教育モデルの提供

生徒一人ひとりの個性を伸ばし、これからの社会を生きる資質・能力を身に付け、希望する進路を実現するための教育モデルの提供

中学校・高校を通じたキャリア教育の計画的実践

◆キャリア教育展開のモデルの提示

◆横浜国立大学との連携による中等教育の充実

大学の教育資源を活用した中学校・高校の教育展開への支援による教育活動の充実、高校と大学との柔軟な接続のしかたの探究の推進

中学校・高校が、「かながわの中等教育の先導的モデル」を享受し、自校の教育改善に反映

◆かながわの中等教育における教育展開モデルの提供

附属横浜中学校の生徒にとって

- ・ これからの社会をよりよく生きるための幅広い能力（「リテラシー」）を身に付けることのできる教育の享受
- ・ 中学校と高校の連携による確かな学力の伸長

県立光陵高等学校の生徒にとって

- ・ これからの社会をよりよく生きるための幅広い能力（「リテラシー」）を身に付けることのできる教育の享受
- ・ 高校と大学の連携による充実した教育活動

◆ 附属横浜中学校から県立光陵高等学校へ進学する生徒にとって

- ・ 連携した教育活動により、中学校で身に付けた確かな学力のさらなる伸長と系統的なキャリア支援

◆ 附属横浜中学校以外の中学校から県立光陵高等学校へ進学する生徒にとって

- ・ 希望する進路の実現につながる充実した教育内容の享受

附属横浜中学校及び県立光陵高等学校生徒の保護者にとって

- ・ これからの社会をよりよく生きるための幅広い能力（「リテラシー」）を身に付けることへの期待
- ・ 希望する進路を実現できる存在としての期待

他の中学校・高校にとって

- ・ 「かながわの中等教育の先導的モデル」を享受し、自校の教育改善へ反映
- ・ 生徒が希望する進路の実現や確かな学力向上をめざすための個に応じた教育の展開や特色づくりの一層の推進

横浜国立大学にとって

- ・ 中学校と高校、高校と大学の継続研究の場としての存在
- ・ 実践的な教員養成等の場としての存在

4 基本的コンセプト

生徒一人ひとりの個性を生かし、特性を伸ばす「人間科学」(*)を基盤とした幅広い能力(「リテラシー」)を育成するための「中等教育の先導的モデル」の構築を行う。

- これからの社会をよりよく生きるための幅広い能力(「リテラシー」)を育成する。
- 多様化する国際社会、多様化する価値観の中で「人」が生きていく上でのさまざまな「かかわり」(『共生』)とそれを支える「コミュニケーション」を基盤とした教育活動を展開する。

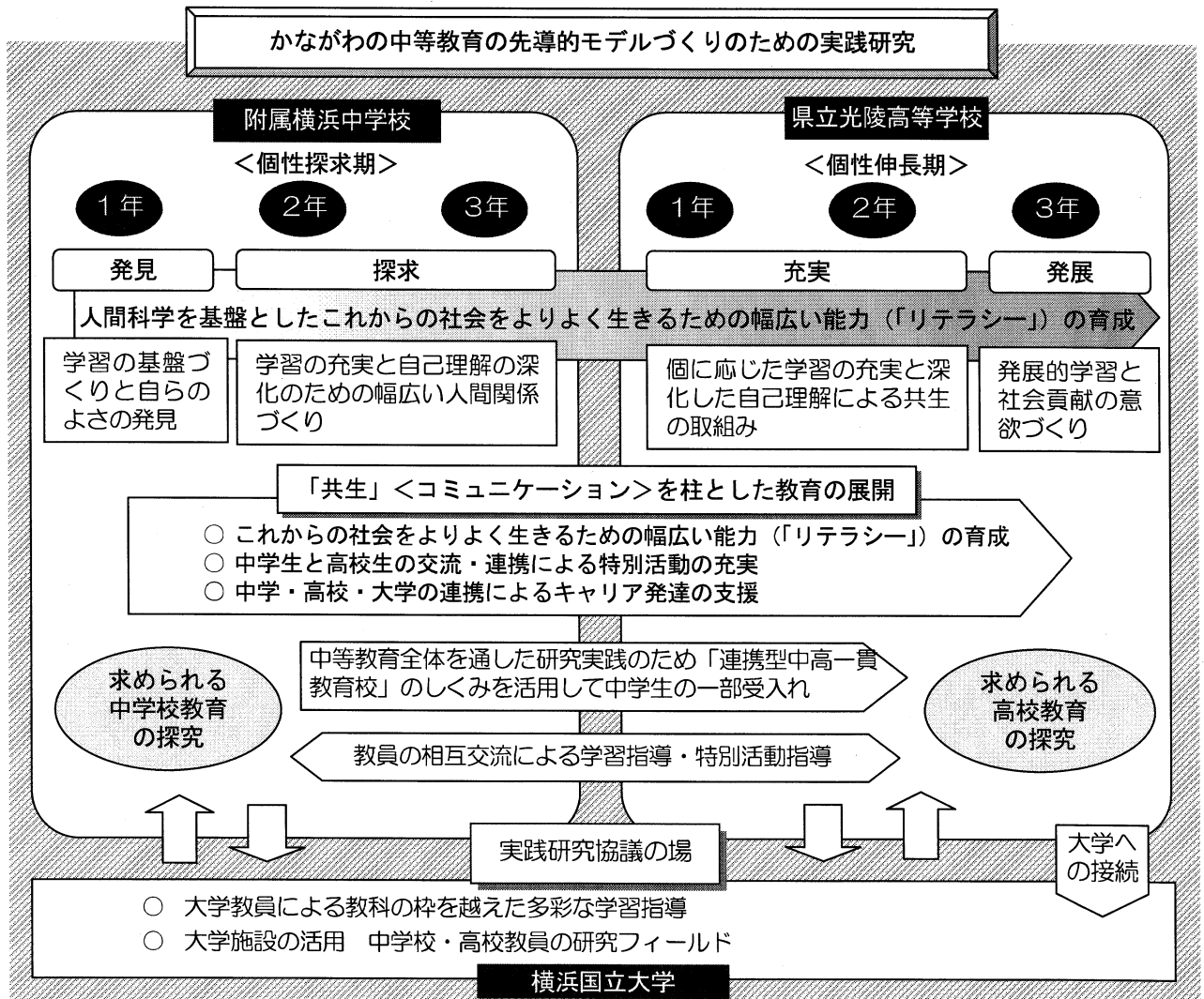
*人間科学:「人」が生きていく上でのさまざまな「かかわり」の科学

人と人のかかわり 人と環境とのかかわり 人と情報とのかかわり 人と社会とのかかわり
人と自然とのかかわり 人と学びとのかかわり 人と生活とのかかわり 人と文化とのかかわり
人と歴史とのかかわり 人と感動とのかかわり 人と健康とのかかわり …

5 教育展開

(1) 中学校・高校の連携による教育展開

中学校及び高校が、それぞれ6年間を見とおした視点を持ち、横浜国立大学の支援を受けながら、かながわの中等教育の先導的モデルづくりのための実践研究を行う。

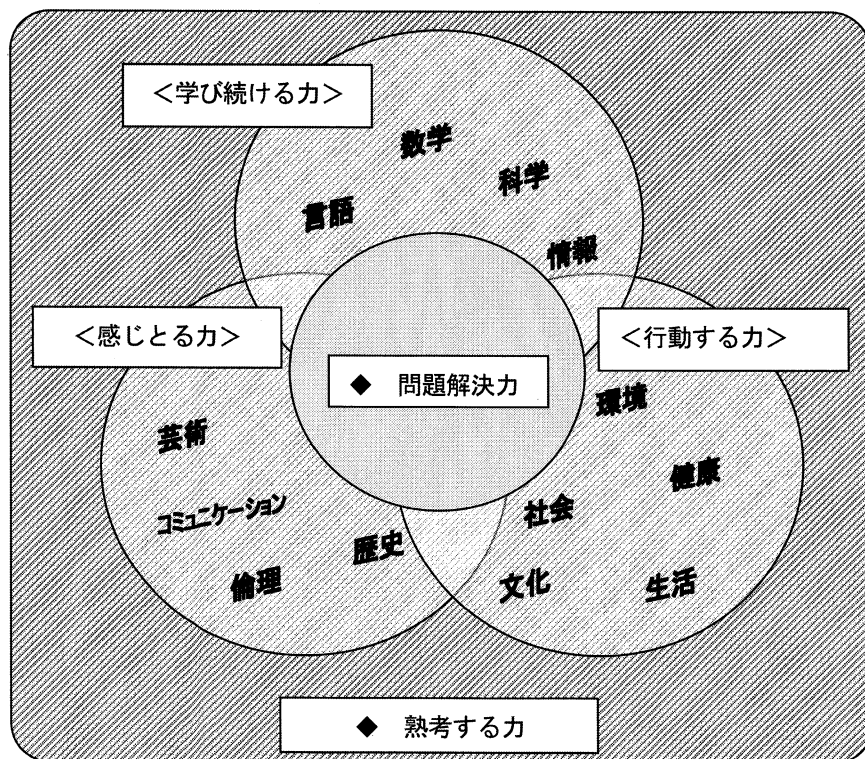


(2) 幅広い能力（「リテラシー」）の育成

○これからの社会をよりよく生きるための幅広い能力（「リテラシー」）の育成

これからの社会をよりよく生きるための幅広い能力（「リテラシー」）の育成にあたっては、「熟考する力」を基盤として、「学び続ける力」、「感じとる力」及び「行動する力」を育み、それらを総合して、「問題解決力」を身に付けることができるよう、6年間を見とおした教育活動全体の中で体系的な展開を進める。

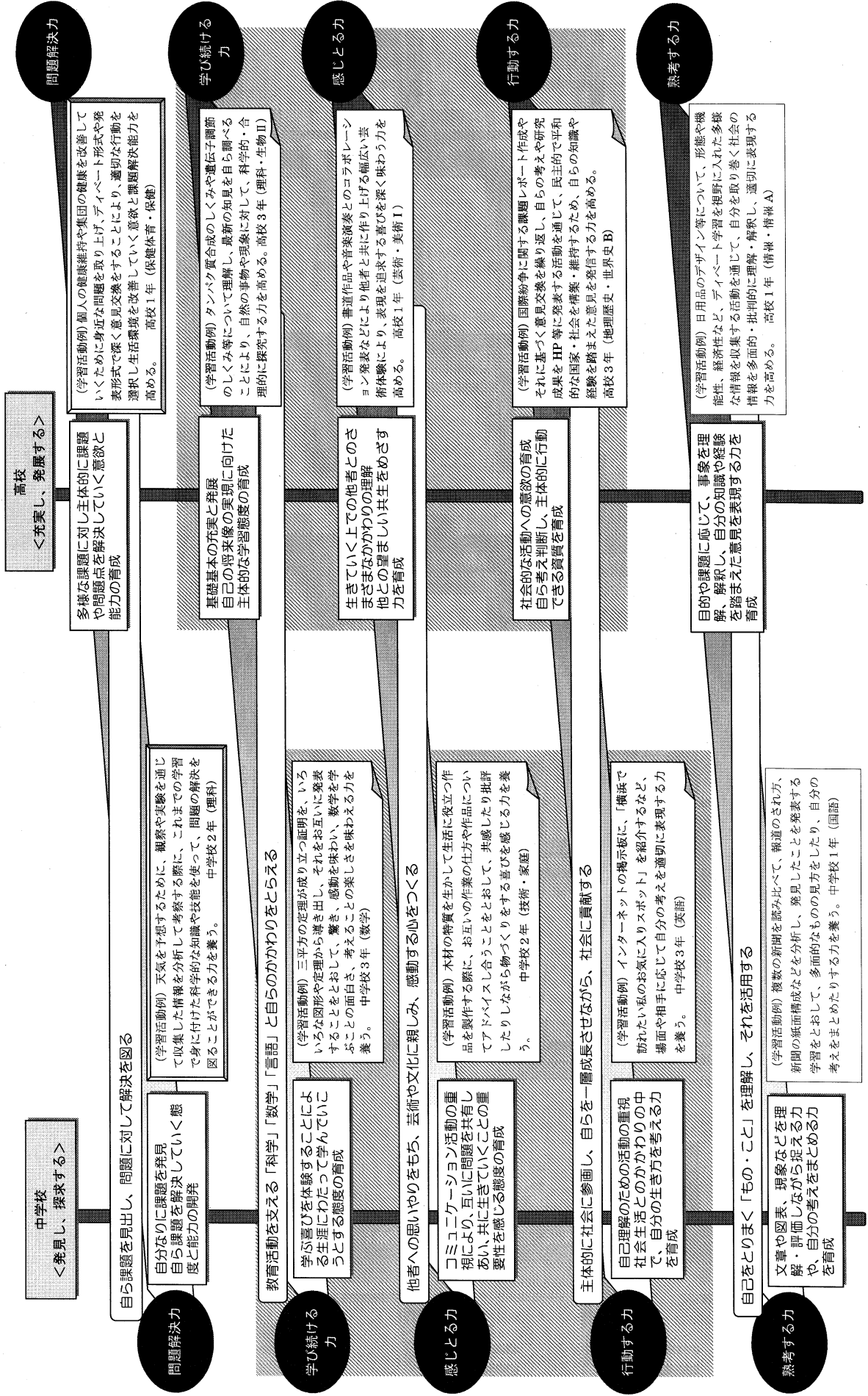
- ◆ 基盤となる「熟考する力」：自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、効果的に社会に参加するために自己をとりまく「もの・こと」を理解し活用する力
 - 「学び続ける力」では、教育活動を支える「科学」「数学」「言語」と自らのかかわりをとらえ、科学的知識を使用して課題を明確にし、結論を導きだす能力や数学的な根拠に基づく判断、さまざまな場面において理解、解釈と情報の再構築を行う言語活用の力を中心とした能力を育成する。
 - 「感じとる力」では、よりよいコミュニケーションのあり方や他者への思いやりの心、倫理観を育むとともに、芸術や文化に親しみ、鑑賞する力や感動する心を養うための能力を育成する。
 - 「行動する力」では、自らの健康や生活をよりよいものにする意欲を育み、社会とのかかわりの中で、主体的に社会に参画し、自らを一層成長させながら、社会に貢献する力を育成する。
-
- ◆ 4つの力を総合して身に付ける「問題解決力」：自ら課題を見出し、問題に対して解決を図ることができる力



(3) 6年間を見とおしたリテラシーの育成

中学校及び高校の6年間を見とおした教育活動全体の中で体系的な教育展開を図るため、すべてのこれからの社会をよりよく生きるための幅広い能力（「リテラシー」）を育成する。

教育活動を通じて、中学校段階、高校段階それぞれに即した取組みを進め、



(4) 特別活動等の展開

特別活動等の展開にあたっては、中学校と高校の連携による交流を積極的に展開する。

○ 学級活動・ホームルーム活動

「感じとる力」や「行動する力」を培い、よりよい人間関係の構築をめざす意欲や能力を育むため、学級活動・ホームルーム活動における幅広い年齢の生徒・大学生の交流・連携を充実する。

例)・目的を明確にした縦割り(6学年)での学級活動・ホームルーム活動、交流活動
・キャリア教育体験(キャリアガイダンス、高校生のキャリア講演会等)

○ 生徒会活動・部活動

「行動する力」を培い、自らのよさを積極的に活用しながら社会にかかわるための意欲や能力を育み、健康で安全な学校生活づくりや体力の向上を図るため、生徒会活動、部活動における交流・連携を推進する。

例)〈生徒会活動〉

- ・生徒会執行部の連携を図るためのリーダーズ研修会(合宿等)
- ・両校生徒会合同企画による活動(海外支援活動、共同制作新聞、共同研究等)
- ・両校生徒会合同企画によるボランティア活動(施設訪問、地域清掃等)

〈部活動〉

- ・合同で行う合宿や発表会
- ・指導者交流、高校生による技術指導による技術の向上
- ・6年間継続した共同研究課題の設定等

○ 学校行事

生涯にわたって芸術に親しむ意欲や豊かな感性や創造性を育むとともに、望ましい倫理観や社会参加、社会貢献に積極的に取り組む意欲を育むため、儀式的行事や集団行動をとまなう行事、奉仕や勤労にかかわる行事など、6年間を見とおした計画的な学校行事を展開する。

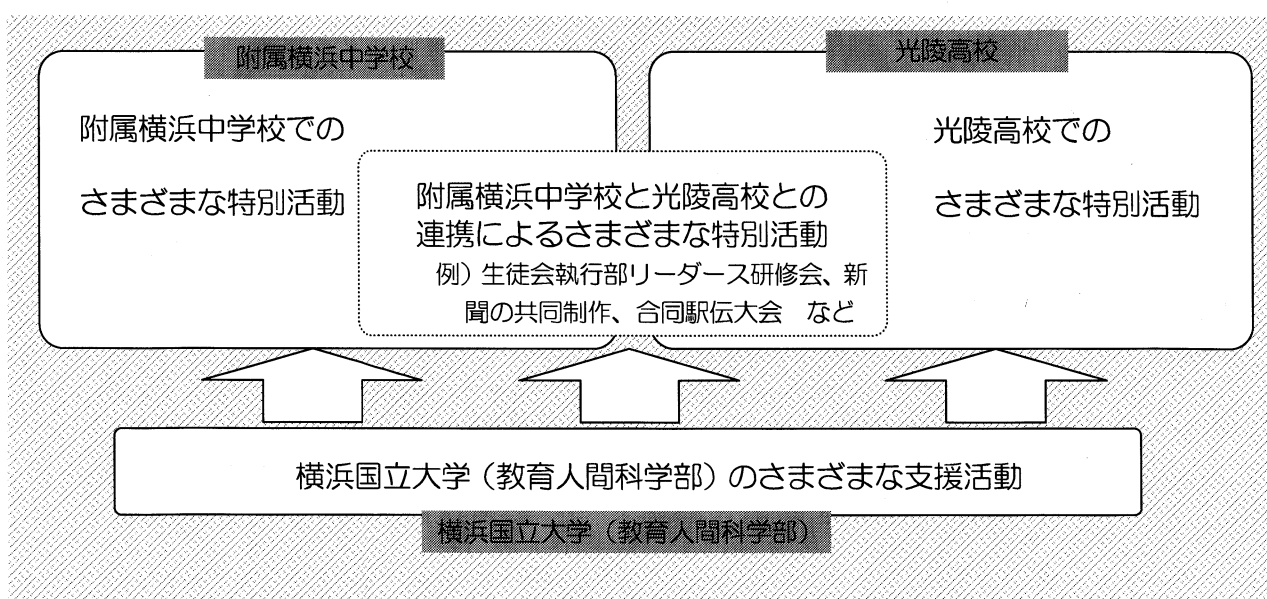
例)・合同体育祭、陸上記録会、駅伝大会など体育的行事

・合同文化祭、合唱祭など学芸的行事

・合同遠足、社会見学、林間学校など旅行宿泊的行事

○ 横浜国立大学との交流

特別活動の展開にあたっては、横浜国立大学との連携を重視し、大学生による部活動の補助的指導や生徒会活動への助言や協力など、中学校・高校の生徒と大学生の交流機会の拡大に努める。



(5) キャリア教育の展開—「総合的な学習の時間」の取組みの連携プログラムを中心に—

自己の個性を理解し主体的に進路選択ができるよう、それぞれの発達段階に応じたキャリア教育を連携して行い、「総合的な学習の時間」での取組みを柱の一つとして、連携プログラムを展開する。

ア 中・高・大の連携によるキャリア教育の推進

- 横浜国立大学による高校生対象の公開授業や出前授業等をとおして、大学が求める学生像や教育内容の情報を提供するとともに、生徒の学習意欲や問題意識の向上を図り、高度な学問に触れる機会を提供することで、適切な進路選択を支援する。

例)・大学生による進路懇談会(2年生全員、1・3年生は自由参加)

・専門分野別、大学生・大学教員等による出張授業(2年生全員)

- 高校での体験授業や出前授業を中学生に対して実施することなどをとおして、高校への理解や適切な進路選択を支援する。

例)・高校体験授業・体験部活動

- 中学生、高校生及び大学生が交流を図ることにより、それぞれ比較的年齢の近い年上の人物の存在が、キャリア形成のモデルとなるよう、積極的な連携活動を充実する。

イ 小学校等との交流活動によるキャリア教育の充実

- 中学生及び高校生が小学生との交流を図ることにより、より幅広い年齢層での多様なコミュニケーション能力の伸長や、ボランティア精神の育成を図ることができるよう、積極的な交流活動を充実する。

例)・光陵高校生徒のボランティア活動

隣接小学校での「読み聞かせボランティア」、特別支援学校での「プールボランティア」

・附属横浜中学校生徒、光陵高校生徒による小学校教育活動支援

夏休みキャンプ活動補助、クラブ活動指導補助、中学進学時の心構え講演会、

校庭・校舎清掃、地域協働ボランティア活動入門支援等

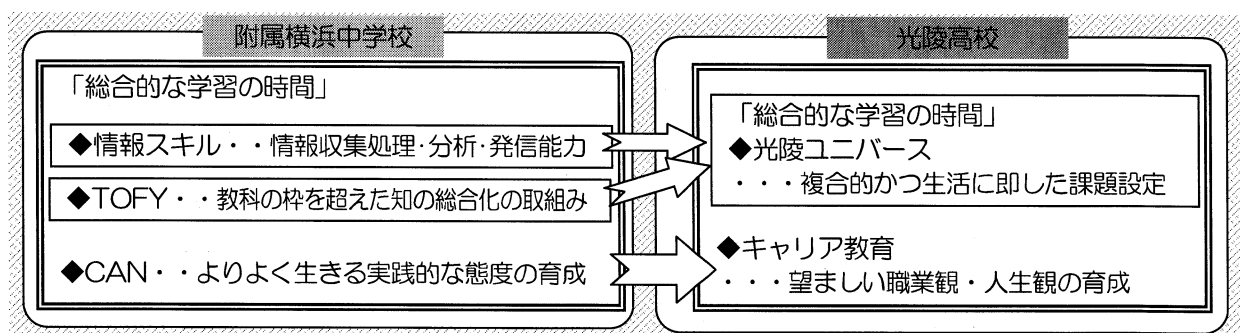
ウ 「総合的な学習の時間」の取組みの連携を活用したキャリア教育プログラム開発

- 附属横浜中学校と光陵高校それぞれで現在展開されている「総合的な学習の時間」の取組みを生かしながら、次の二点を実現する、より緊密な連携教育プログラムを開発する。

① 自ら課題を見つけ、よりよく解決するために必要な資質や能力を育成すること。

② 自己の在り方生き方を考え、未来を切り開く意欲・能力を育成すること。

〈現行の附属横浜中学校及び光陵高校の「総合的な学習の時間」の取組み〉



(附属横浜中学校での取組み)

◆情報スキル(1年生の前期)

広義の「情報やり取り」能力として意味づけ、各教科や道徳、特別活動等にも対応できる「基本的な力を身に付ける場」として位置づけ、情報収集、プレゼンテーション、パソコンなどの技術習得を行っている。

◆TOFY (Time of Fuzoku Yokohama)

生きる力を「自ら課題を発見する力・自ら考え分析する力・自らの考えを発表する力・ふり返る力」と捉え、それぞれに対応する学習活動を展開する。

Ⅰ期(1年後期～2年前期)教科によって設定された課題研究を行い、学習方法を身に付ける。

Ⅱ期(2年後期～3年前期)教科の課題研究又は自分で課題を設定して(自由)研究する。

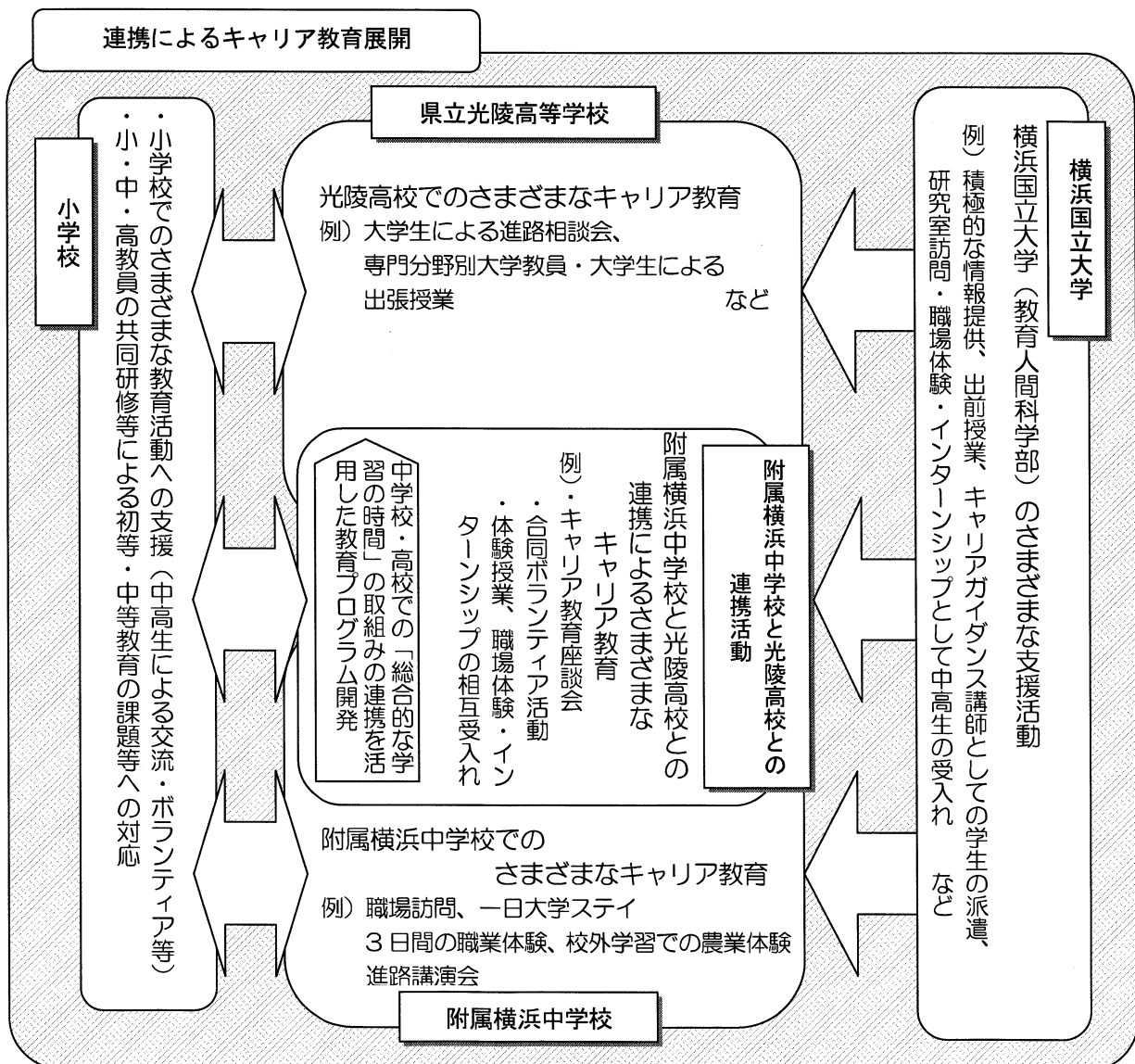
◆CAN (Career Aim Navigation) (3年後期)

「人生行路の航海術を学ぶ」ということを「生き方を学ぶ」ととらえ、また英語のCAN(可能)の意味を込めている。活動や体験を通して、さまざまな人間としての生き方を学び、自己の生き方を考え、自己の理解を深め、自己を活かし、より良く生きる実践的な態度を育てる。

(光陵高校での取り組み)

◆光陵ユニバース(1年～3年 各1単位)

生涯をととして自らテーマを見つけ、それらを主体的に解決していく資質や能力を育成し、平和と福祉・人権と国際理解について関心を高める学習活動を展開する。また、外部講師によるスポット講演や多様な形態による学習活動、調査研究に取り組む。



(6) 小学校との交流を視野に入れた取組み

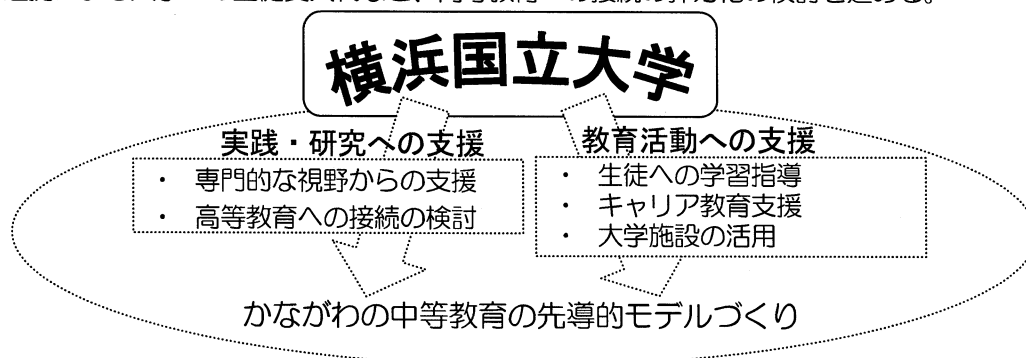
小学校との交流による教育活動の一層の充実を図る。

- 附属横浜中学校生徒、光陵高校生徒による小学校教育活動支援
例) 夏休みキャンプ活動補助、クラブ活動指導補助、キャリア教育プログラム展開の補助、校庭・校舎清掃等地域協働ボランティア活動入門支援、教科外活動・特別活動支援等
- 小学校教員との定期的な交流により、初等・中等教育全般に関する研修会を定期的開催する。
例) ・小学校の視点から中学校教育・高校教育の課題や先導的モデルづくりに関する協議
・小学校児童の状況や初等・中等教育の接続の課題(中1ギャップ等)についての理解の深化

(7) 「かながわの中等教育の先導的モデルづくり」における横浜国立大学の果たす役割

教育実践や研究に対する支援、教員の資質向上に関する支援、中学生・高校生の教育活動への大学教員や大学生による直接的支援、中学生・高校生の教育活動への施設提供等、「かながわの中等教育の先導的モデルづくり」に関する全般的な支援を行う。

- かながわの中学校・高校教育の方向性について、専門的な視野から研究開発を積極的に支援する。
- 教育の現代的課題に対する情報の提供や助言を行うとともに、中学校教育・高校教育の質を高める研修等を支援する。
- 中学校・高校の教育活動における大学教員の指導の展開など、これからの社会をよりよく生きるための幅広い能力(「リテラシー」)の育成を図るための学習指導を展開する。
- 大学の講座への高校生の積極的受入れによる生徒一人ひとりの学習ニーズや特性に応じた教育の提供を図る。
- 大学各学部・学科による専門的研究体験など、生徒一人ひとりのキャリア形成のための取組みを推進する。
- 中学校・高校の教育活動展開の場として、大学施設の提供を行うなど、中学校教育・高校教育を充実するための環境づくりを積極的に進める。
- 連携による大学への生徒受入れなど、高等教育への接続の弾力化の検討を進める。



- 例) ・ 横浜国立大学の授業・公開講座等へ附属横浜中学校や光陵高校教員の参加受入れ
・ 附属横浜中学校、光陵高校間の教科別担当者連絡協議会等での教育人間科学部の関係教科教授等の継続的な指導・助言による授業改善
・ 大学教員による高校・中学での授業(通年、短期集中、スポット等)
・ 大学での講義や各種講座等への高校生の参加受入れ
・ 大学生による中学校・高校での教科学習支援(授業補助、補習補助、個別指導等)
・ 大学生による中学校・高校での特別活動等支援(キャリア教育講演会講師、チューター、学校行事等特別活動補助、部活動指導、ボランティア連携活動等)
・ インターンシップ・職場体験先として、大学事務局や研究室等での中学生・高校生の受入れ
・ 大学施設の中学校生徒や高校生徒の受入れ(横浜キャンパス等のグラウンド・体育館・図書館等の利用、真鶴・ハケ岳の宿泊施設の利用)

6 入学者の受入れ

附属横浜中学校と光陵高校ともに、かながわの中等教育の先導的モデルづくりの取組みを踏まえ、求められる力に重点を置いた入学者選抜を実施

(1) 横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校の入学者選抜

横浜国立大学教育人間科学部附属横浜小学校からの受入れについて

- 横浜国立大学人間教育科学部附属学校として横浜小学校からの連絡入学者の受入れについては、かながわの中等教育の先導的モデルづくりの取組みを踏まえ、求められる力に重点を置いた連絡入学者協議を経て行う。

「連絡入学」以外の入学者選抜

- 中学校として通常の教育のほか、研究推進校として教育上の多様な試みを行うことや教育人間科学部の学生が教育実習生として生徒の教育に参加するなど附属学校の特性を持っていることを踏まえた選抜を行う。
- 志願資格：小学校卒業見込みで、神奈川県内に保護者と共に居住し、公共交通機関を用いて安全に60分以内で通学できる児童
- 選抜方法：かながわの中等教育の先導的モデルづくりの取組みを踏まえ、求められる力に重点を置いた筆記テスト（算数、国語、社会、理科）及び書類（小学校長が作成した「報告書」）により総合的に判断

(2) 県立光陵高等学校の入学者選抜

横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校からの受入れについて

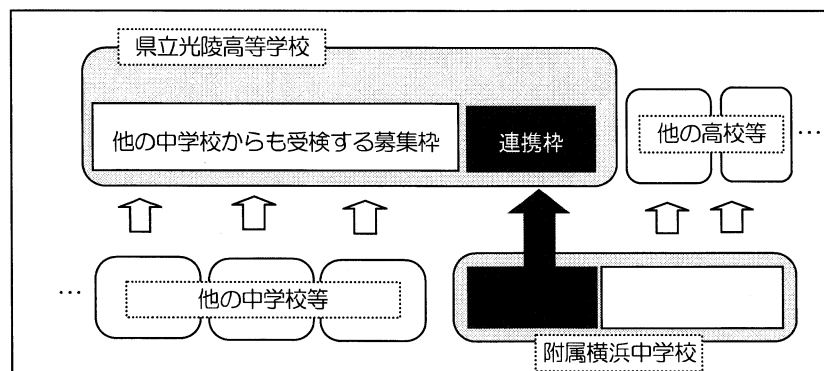
- 連携型中高一貫教育校であることを踏まえ、調査書や学力検査によらない簡便な入試を行う。
- 募集人数：上限は1クラス相当とし、他の入学者選抜の募集人員の外枠『連携枠』とする。

○選抜方法：

＜日 程＞ 県立高校の前期選抜の日程と併せて実施する。

- ＜志願条件＞
- ① 附属横浜中学校との連携によるかながわの中等教育の先導的モデルづくりに基づく教育方針を理解した上で、光陵高校を第一希望とする者。
 - ② 附属横浜中学校において、リテラシーの育成を重視した学習に積極的に取り組むなどにより、一定の成果をあげた者。
 - ③ 附属横浜中学校長の推薦を得た者。

＜選考方法＞ 志願にあたって提出する課題レポートとそれに基づく面接（個人面接・プレゼンテーション）により、総合的に判断する。



「連携枠」以外の入学者選抜

- 神奈川県立の高等学校の入学者の募集及び選抜要綱にもとづいた選抜を行う。
- 募集区分：中学校卒業又は中学校卒業見込みの者の募集
- 選抜方法：
 - ＜前期選抜＞ 調査書及び面接の結果、かながわの中等教育の先導的モデルづくりの取組みを踏まえ、学校が実施する検査の結果に基づく総合的な選考
 - ＜後期選抜＞ 調査書及び学力検査の結果に基づく選考
学力検査問題のうち、国語、数学、英語については、中学校との連携によるかながわの中等教育の先導的モデルづくりの取組みを踏まえ、求められる力に重点を置いた学校独自問題により実施
- その他：附属横浜中学校生徒で、光陵高校を第一志望としながらも校長推薦を得られなかった者については、「連携枠」以外の一般の受検生と同様の内容で、前期選抜、後期選抜に志願することができる。

7 実践研究組織と成果の発信

- かながわの中等教育の先導的モデルづくりのため、中学校・高校・大学の連携活動に対して、横浜国立大学及び神奈川県教育委員会は、これらの活動を充実するための支援に努めることとする。
 - 例）・県立高校教員と横浜国立大学教育人間科学部、附属横浜中学校との交流・研修体制の充実。
・中・高連携を図るため、県立高校教員を附属横浜中学校へ研修派遣する。
- 実践研究の質を高め、課題や方向性を明らかにするため、研究協議の場として「かながわの中等教育の先導的モデルづくり実践研究会」（仮称）を設置する。
- 附属横浜中学校・光陵高校の各教科担当者、校務分掌担当者レベルが恒常的に連携する連絡協議会を設立する。
 - 例）・教科別担当者連絡協議会
（国語、社会、数学、理科、芸術、保健体育、技術・家庭（情報）、英語）
・校務分掌担当者連絡協議会
（研究・教務、生徒指導・生徒会、PTA）
- 実践研究による成果を積極的に発信し、本県の中等教育の充実を図るため、公開研究協議の場や実践研究成果のまとめを随時公表するなどの取組みを進める。
 - 例）・中・高・大教員を対象として、「かながわの中等教育の先導的モデルづくり」の進捗状況や、県内中学校や高校の先進的なリテラシー育成教育実践校の事例発表を行うフォーラムを毎年開催。
・中学校・高校それぞれが毎年公開授業と研究討議を行う。
・中・高・大連携による教科別担当者連絡協議会を県内教員等へ公開し、見学者参加型協議形式により開催する。
・かながわの中等教育の先導的モデルづくりの研究について、研究紀要を毎年発行する。

【参考資料】

1 取組みを実施する中学校・高校・大学

横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校

○ 所在地 横浜市南区大岡2丁目31番3号

○ 沿革

昭和22年5月	神奈川師範学校女子部附属小学校高等科を独立分離し、神奈川師範学校女子部附属中学校として発足
昭和24年6月	校名を横浜国立大学神奈川師範学校横浜中学校に変更
昭和26年4月	校名を横浜国立大学学芸学部附属横浜中学校に変更
昭和41年4月	校名を横浜国立大学教育学部附属横浜中学校に変更
昭和53年4月	海外帰国子女定員枠を新設
昭和56年8月	中区立野地区より工学部跡地の弘明寺キャンパスへ校舎移転 今日に至る
平成9年10月	校名を横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校に変更
平成12年11月	本校校舎が有形文化財の指定を受ける

○ 教育方針・特色ある教育内容

＜育てたい生徒像と学校目標＞

◇ 将来めざす人間像

柔軟な思考力と実践力で、新たな地平を切り拓いていく人間

◇ 育成をめざす生徒の姿

- ① 変化する社会に柔軟に対応できる思考力や問題解決能力を身に付けた生徒
- ② 国際社会で活躍できる幅広い教養と、自分の考えを的確に表現する力を持った生徒
- ③ 高度情報社会を積極的に切り拓いていけるような情報活用能力を身に付けた生徒
- ④ 次のパラダイムを予測して、創造力を持って新たなものに挑戦しようとする生徒
- ⑤ 他人の個性や考えを認め合い、共に生きていく関係づくりをしようとする生徒
- ⑥ 相手に対しての思いやりの心を忘れず、物事に誠実に対応していく生徒
- ⑦ 自分の心と身体についての理解を深め、健康や安全を心がけようとする生徒
- ⑧ 自分の進路、取り組むべき課題解決、身体の在り方に対して、自己評価を行い、より良い方向に修正していくことのできる生徒

◇ 育てたい力（21世紀に生きる力）

〔知〕	〔徳〕	〔体〕
柔軟な思考力	良識ある行動力	自分づくりの力
問題解決能力	他と共に生きる力	
豊かな表現力	人を思いやる力	
情報活用能力	誠実な対応力	
創造力		

自己評価力

◇ 附属横浜中学校の生徒とは



F.....Flexible（柔軟性） Y.....やる気

柔軟な思考力と実践力

○ 研究テーマ 等

平成16年度 自らを拓く学びの力が身につく教育活動の工夫と評価

平成17年度 教科をもっと面白くする～学習実感 気がついたら学力向上～

平成18年度 「読解力」でカリキュラムマネジメント

平成19年度 探究型授業探求～新しい学習指導要領に向けて～

神奈川県立光陵高等学校

○ 所在地 横浜市保土ヶ谷区権太坂 1 丁目 7 番 1 号

○ 沿革

昭和 41 年 1 月	県立横浜立野高等学校山手分校設置
昭和 41 年 4 月	県立横浜日野高等学校校舎の一部を借用して開校
昭和 43 年 3 月	県立光陵高等学校に校名変更
昭和 46 年 3 月	新校舎（保土ヶ谷区権太坂）に移転

○ 教育方針・特色ある教育内容

◇ 教育方針

豊かな教養と徳性の涵養につとめ、心身ともにねばり強い青年を育成する
基礎学力を充実するとともに、生徒一人一人の可能性を最大限にのばすよう努力する
自主的にして積極的な学習態度を養う
誠実にして責任を重んじ、心豊かな人格を形成する
健康と安全の教育の徹底を期する

◇ 特色ある教育内容

幅広い学びと学力の充実
個に応じた指導の展開
中高連携やキャリアガイダンスなどをテーマとした教育の推進
大学からの出張授業等の高大連携の推進
保土ヶ谷養護学校や近隣中学校との交流活動

○ 研究実績 等

平成 18 年度 特色ある高校づくり推進事業に係る重点校（総合的な学習の時間）
平成 17 年度～19 年度 キャリア教育実践推進モデル校
平成 19 年度～21 年度 学力向上進学重点校

横浜国立大学教育人間科学部

○ 所在地 横浜市保土ヶ谷区常盤台 79-1

○ 沿革

昭和 24 年 5 月	教育学部設置（学芸学部） 4 年課程 2 年課程
昭和 41 年 4 月	学芸学部を教育学部と改称 教育専攻科設置
昭和 40 年 4 月	小学校教員養成課程及び中学校教員養成課程設置
昭和 47 年 4 月	養護学校教員養成課程設置
昭和 49 年 8 月	清水ヶ丘地区から常盤台地区へ移転
昭和 50 年 4 月	特殊教育特別専攻科設置
昭和 54 年 4 月	大学院教育学研究科〈修士課程〉設置
平成 9 年 10 月	教育人間科学部設置 教育学部を改組 学校教育課程・地球環境課程・マルチメディア文化課程・国際共生社会課程
平成 12 年 4 月	大学院教育学研究科に学校教育臨床専攻〈修士課程、独立専攻、夜間〉設置
平成 16 年 4 月	国立大学法人横浜国立大学となる

○ 学部の方針

地球社会の新たなコミュニケーション回路を創造するー

次世代の教育の担い手と地球社会人を育成

<3つのキーワード>

高度な情報リテラシー
知識のネットワーク技法
環境やコミュニティに対する理解

環境や社会の変化についての深い理解の上になんて、コンピュータやマルチメディアを使いこなすことができ、複数の領域の知識を結び付けることができるようになる人材の育成